

平成29年4月1日現在

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表]

機関名	大阪大学	整理番号	L02
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) にしお しょうじろう 氏名・職名 西尾 章治郎(大阪大学・学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) ほしの としや 氏名・職名 星野 俊也(国際公共政策研究科・国際公共政策専攻・教授)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) しみず こうきち 氏名・職名 志水 宏吉(人間科学研究科・人間科学専攻・教授)		
4. 類型	L<複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	未来共生イノベーター博士課程プログラム	
	英語名称	Revitalizing and Enriching Society through Pluralism, Equity, and Cultural Transformation	
	副題		
6. 授与する博士 学位分野・名称	文学、人間科学、法学、経済学、応用経済学、経営学、医学、看護学、保健学、工学、言語文化学、日本語・日本文化、国際公共政策、学術 付記する名称: 未来共生イノベーター博士課程プログラム		
7. 主要分科	(① 社会学) (② 教育学) (③ 政治学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	言語学、文化人類学、経営学、総合工学、社会医学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	社会学、教育学、国際関係論、外国語教育、文化人類学・民俗学、経営学、地球・資源システム工学、衛生学・公衆衛生学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	文学研究科文化形態論専攻、文学研究科文化表現論専攻、人間科学研究科人間科学専攻、法学研究科法学・政治学専攻、経済学研究科経済学専攻、経済学研究科経営学系専攻、医学系研究科医学専攻、医学系研究科保健学専攻、工学研究科地球総合工学専攻、工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻、言語文化研究科言語文化専攻、言語文化研究科言語社会専攻、言語文化研究科日本語・日本文化専攻、国際公共政策研究科国際公共政策専攻、国際公共政策研究科比較公共政策専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

14. プログラム担当者の構成 計 61 名					
外国人の人数		7 人	[11.5% %]	女性の人数	
				14 人 [23.0% %]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [88.5 %]					
プログラム実施大学に属する者			54 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			46 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				6 人	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成29年度における役割)
(プログラム責任者)					
星野 俊也	ホシノ トシヤ		国際公共政策研究科・国際公共政策専攻・教授	国際関係論、国連研究、平和創造、平和構築・博士(国際公庫湯政策)	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター)					
志水 宏吉	シミス コウキチ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	教育社会学・博士(教育学)	プログラム全般のマネージメント
園山 大祐	ソノヤマ ダイスケ		人間科学研究科・人間科学専攻・准教授	教育制度学、比較国際教育学・修士(教育学)	プログラムの開発・運営
Yamamoto Beverley Anne	ヤマモト ベバリー アン		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	先端人間学、生涯教育、教育の国際化・Ph.D(東アジア研究)	プログラムの開発・改善
稲場 圭信	イナバ ケイシン		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	現代社会学、宗教社会学・Ph.D(宗教学)	プログラムの開発・運営
栗本 英世	クリモト エイセイ		人間科学研究科・人間科学専攻・研究科長	社会人類学・修士(文学) 文学修士	プログラムの企画・運営
森田 敦郎	モリタ アツロウ		人間科学研究科・人間科学専攻・准教授	人類学、タイ研究・博士(学術)	プログラムの開発・運営
渥美 公秀	アツミ トモヒデ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	ボランティア行動学・Ph.D(心理学)	プログラムの開発・運営
佐藤 眞一	サトウ シンイチ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	臨床死生学、老年行動学・博士(医学)	プログラムの開発・改善
澤村 信英	サカムラ ノブヒデ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	国際教育開発論・博士(人間科学)	プログラムの開発・運営
Hawkins Virgil	ホーキンス ガーゼル		国際公共政策研究科・国際公共政策専攻・准教授	国際政治・博士(国際公共政策)	学生の履修支援と点検
河村 倫哉	カワムラ ミチヤ		国際公共政策研究科・比較公共政策専攻・准教授	多文化共生、市民社会学・修士(社会学)	プログラムの開発・運営
松野 明久	マツノ アキヒサ		国際公共政策研究科・比較公共政策専攻・教授	紛争研究、平和構築・修士(文学)	学生の履修支援と点検
大槻 恒弘	オオツキ ツネヒロ		国際公共政策研究科・国際公共政策専攻・教授	開発経済学・Ph.D(農業資源経済学)	学生の履修支援と点検
植田 晃次	ウエダ コウジ		言語文化研究科・言語文化専攻・准教授	朝鮮語学、社会言語学・修士(文学)	プログラムの開発・運営
山下 仁	ヤマタ ヒトシ		言語文化研究科・言語文化専攻・教授	社会言語学・修士(文学) 文学修士	プログラムの開発・運営
清水 政明	シミス マサアキ		言語文化研究科・言語社会専攻・教授	ベトナム語音韻史・修士(人間・環境学)	学生の履修支援と点検
鈴木 慎吾	スズキ シンゴ		言語文化研究科・言語社会専攻・講師	中国語音韻史・博士(言語文化学)	学生の履修支援と点検
上原 順一	ウエハラ ジュンイチ		言語文化研究科・言語文化専攻・教授	電子教材と外国語教育、ロシア語の語形成・修士(文学)	学生の履修支援と点検
筒井 佐代	ツツイ サヨ		言語文化研究科・日本語・日本文化専攻・教授	日本語教育学、会話分析・博士(言語文化)	プログラムの開発・改善
藪中 三十二	ヤブナカ ミツジ		国際公共政策研究科・特任教授 外務省顧問(前外務事務官)	外交政策	プログラムの企画・開発
橋爪 節也	ハシヅメ セツヤ		総合学術博物館・教授	日本東洋美術史・修士(芸術学)	プログラムの開発・改善
杉原 達	スギハラ トオル		文学研究科・文化形態論専攻・教授	日本学、文化交流史・博士(経済学)	学生の履修支援と点検

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成29年度における役割)
福井 康太	フカイ コウタ		法学研究科・法学・政治学専攻・教授	法社会学、法政策学、博士(法学)	プログラムの企画・開発
長田 真里	ナガタ マリ		法学研究科・法学・政治学専攻・教授	国際私法、国際民事手続法・博士(法学)	学生の履修支援と点検
許 衛東	キョ エイトウ		経済学研究科・経営学系専攻・准教授	経済地理学、中国经济学、修士(教育学)	学生の履修支援と点検
磯 博康	イソ ヒロユキ		医学系研究科・医学専攻・教授	公衆衛生学・博士(医学)	プログラムの企画・開発
渡邊 浩子	ワタナベ ヒロコ		医学系研究科・保健学専攻・教授	臨床看護学・博士(保健学)	プログラムの企画・開発
横田 隆司	ヨコタ タカシ		工学研究科・地球総合工学専攻・教授	建築計画、建築都市人間工学・博士(工学)	プログラムの企画・開発
倉敷 哲生	クラシキ テツセイ		工学研究科・ビジョンエンジニアリング専攻・准教授	信頼性工学、複合材料工学・博士(工学)	学生の履修支援と点検
上西 啓介	ウエニシ ケイスケ		工学研究科・ビジョンエンジニアリング専攻・教授	マイクロナノデバイス、電子デバイス、電子機器、電子・電気材料工学・博士(工学)	学生の履修支援と点検
森栗 茂一	モリクリ シゲカズ		COデザインセンター・教授	コミュニティ、コミュニケーション・博士(文学)	プログラムの企画・開発
桃木 至朗	モモキ シロウ		文学研究科・文化形態論専攻・教授	歴史教育・博士(文学)	プログラムの企画・開発
本間 直樹	ホンマ ナキ		COデザインセンター・准教授	臨床哲学・修士(文学)	プログラムの開発・運営
西口 光一	ニシグチ コウイチ		国際教育交流センター・教授	言語心理学、日本語教育学・修士(教育学)	プログラムの企画・開発
大谷 晋也	オオタニ シンヤ		国際教育交流センター・准教授	日本語教育学、言語社会学・修士(言語文化)	学生の履修支援と点検
岩居 弘樹	イワイ ヒロキ		全学教育推進機構・教授	ICTを活用した外国語教育・修士(文学)	プログラムの企画・開発
渡邊 あゆみ	ワタナベ アユミ		NHK・アナウンサー	放送職・学士(教養)	プログラムの開発・改善
朴 一	ハク イチ		大阪市立大学経済学研究科・教授	エスニック、マイノリティ、スターディーズ・博士(商学)	プログラムの企画・開発
千 玄室	チン ゲンシツ		日本国際連合協会・会長(兼日本・国連親善大使、日本国観光親善大使、ユネスコ親善大使、茶道裏千家第15代家元)	茶道、日本文化・博士(哲学、文学)	プログラムの企画・開発
小林 義彦	コバヤシ ヨシヒコ		公益社団法人関西経済連合会・国際部長	修士(国際公共政策)	プログラムの開発・改善
若月 誠	ワカキ マコト		アクティブユニット有限会社・代表取締役、経営コンサルタント	組織人材開発、キャリア開発、ベンチャー起業論・修士(経営学)	プログラムの開発・改善
向井 正博	ムカイ マサヒロ		大阪府教育委員会・教育長	教育行政・学士(法学)	プログラムの開発・改善
中田 研	ナカタ ケン		医学系研究科医学専攻・教授	スポーツ整形外科、関節外科スポーツ科学、分子生物学・博士(医学)	プログラムの企画・開発
廣田 誠	ヒロタ マコト		経済学研究科経済学専攻・教授	日本経済史・博士(経済学)	プログラムの企画・開発
YOKOTA Gerry	ヨコタ ジェリー		言語文化研究科言語文化専攻・教授	国際交流のアイデンティティとしての能・狂言・Ph.D(文学)	学生の履修支援と点検
河井 伸子	カワイ ノブコ		医学系研究科保健学専攻・講師	成人看護学(慢性領域)・博士(看護学)	プログラムの企画・開発
中内 政貴	ナカウチ マサタカ		国際公共政策研究科国際公共政策専攻・准教授	国際政治学、国際機構論、平和構築論、バルカン地域の政治・博士(国際公共政策)	プログラムの企画・運営
吉富志津代	ヨシトミ シヅヨ		NPO法人多言語センターFACIL・理事長	多文化共生、外国人自助組織、青少年育成、市民メディア、防災減災博士(人間・環境学)	プログラムの開発・改善
塚本 俊也	ツカモト トシヤ		未来戦略機構第五部門・特任教授(常勤)	社会学・修士(社会科学)	プログラムの開発・運営及び企画・実施業務
脇阪 紀行	ワキサカ ノリユキ		未来戦略機構第五部門・特任教授(常勤)	欧州、外国人問題等・学士(法学)	プログラムの開発・運営業務

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成29年度における役割)
榎井 縁	エノイ ユカリ		未来戦略機構第五部門・特任准教授(常勤)	教育社会学・修士 (人間科学)	プログラムの開発・運営及び企画・実施 業務・評価業務
平尾 一郎	ヒラオ イチロウ		未来戦略機構第五部門・特任助教(常勤)	社会移動論・博士 (人間科学)	プログラムの開発・運営業務
山本 晃輔	ヤマモト コウスケ		未来戦略機構第五部門・特任助教(常勤)	教育社会学・博士 (人間科学)	プログラムの開発・運営業務
吉田 康寿	ヨシダ ヤスシ		未来戦略機構第五部門・特任助教(常勤)	地域協力・修士 (国際公共政策)	プログラムの開発・運営業務
MOHACSI GERGELY	モハーチ ゲルゲイ		人間科学研究科人間科学専攻・助教	農業経済学、社会 経済史、文化人類 学・修士(歴史 学)(農学)(人 間学)	プログラムの開発・運営業務
石塚 裕子	イヅカ ユウコ		未来戦略機構第五部門・特任助教(常勤)	都市計画・博士 (工学)	プログラムの開発・運営業務
今井貴代子	イマイ キヨコ		未来戦略機構第五部門・特任助教(常勤)	教育社会学・修士 (人間科学)	プログラムの開発・運営業務
神田麻衣子	カンタ マイコ		未来戦略機構第五部門・特任助教(常勤)	アフリカ文学・博 士(言語文化学)	プログラムの開発・運営業務
田川 千尋	タガワ チヒロ		未来戦略機構第五部門・特任助教(常勤)	教育学・教育学 DEA	プログラムの開発・運営業務
MULLER Stephen John	ミューラー ステファン ジョン		未来戦略機構第五部門・特任講師(常勤)	神学・英語・ドラ マ・修士(MA)・ 教育学大学院証明 (PGCE)	プログラムの開発・運営業務

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】

本プログラムは、総長のリーダーシップのもと、多文化共生に関係する部局を横断した大阪大学の知的リソースと幅広い産学官との連携とを総合して、次世代をリードする若手研究者・実践家が、各自のコアとなる高度で先端的な専攻別の博士学位研究を高めると同時に、グローバル化の進む今日の世界の中で、俯瞰的・独創的な観点と他者に対する深い理解に基づく敬意(respect)に立脚し、多様で異なる背景や属性を有する人々が互いを高め合い、共通の未来に向けた斬新な共生モデルを具体的に創案・実施できるダイナミックな知識・技能・態度・行動力を持つ、いわば「未来共生イノベーター」となるべき人材の養成を目指す。本事業を「RESPECT(Revitalizing and Enriching Society through Pluralism, Equity and Cultural Transformation)プロジェクト」と称する所以である。さらに、本プログラムでは、人々が、未来志向で、互いに幸福を分かち合える共生社会への変革の道筋をダイナミックに研究する新たな学問体系としての「未来共生学」という学際複合的な学問領域の創成を目指す。

地球規模での相互結合性の拡大や情報通信技術の発展、国境を越える人口移動は、グローバルなレベルでの異文化間の接触を確実に加速化させ、また、今後のデモグラフィ・バランスの遷移(たとえば、アジアの少子高齢化やアフリカの若年層人口の膨張など)や民族構成の変化は、国内ないしローカルなコミュニティの多文化性に大きく影響することになる。多文化共生の推進は、日常の生活(医療現場や都市計画を含む)のなかはもとより、大規模災害や紛争や差別や人権抑圧といった危機的な事態への取り組みや、危機からの復興・和解・平和構築の過程では極めて重要な課題といえる。こうした中、専門分野における先端的なクオリティの高い研究能力に加え、人々が国籍、民族、言語、宗教、性差、世代差、病・障害歴等を含む、人々のアイデンティティの多元性を互いに認め合い、対等な関係を築きながら、よりよい未来の共生社会の形成への変革をリードする力量(知識・技能・態度・行動力)を備えた人材の育成は急務といえる。

【特色】

本プログラムでは、選り抜かれた大学院生が、5年一貫で、本来の専門分野における質の高い博士の学位研究に並行して「未来共生イノベータープログラム」を学修する、実質的な「ダブル・メジャー」教育を行う。広く定義された「多文化性」の相互尊重の多角的な研究に取り組む修了者は、研ぎ澄まされた「多文化コンピテンシー」を持つリーダーとして、多文化共生分野の最先端の研究者はもとより、人文・社会科学・医学・工学等の各分野の研究者や、日本を含む各国の政府・議会、地方自治体、国際機関、グローバル企業、メディア、学校教育、国際協力機関、NGO等で、俯瞰的・独創的立場から「未来共生」をリードする役割が期待される。

履修学生は、総長直轄の大阪大学未来戦略機構のもとに新設される第五部門に所属し、特別に編成された「アカデミックワーク」、「プラクティカルワーク」、「リサーチワーク」の3本立てのカリキュラムを通じ、「多文化コンピテンシー」を構成する6つのリテラシー(多言語、フィールド、グローバル、調査、政策、コミュニケーション)を涵養する。各個人に対しては、研究テーマに合わせ、研究科の枠を超えた論文指導体制を組み、複数言語の運用能力の修得、海外インターンシップや国内フィールドワーク、文理横断のプロジェクト型ラーニングなどが課される。さらに、学生生活面では、留学生と日本人学生がペアになる「バディ制」や学年を超えて学生同士が相互に学び合う「ハウス制」を導入する。

本事業を通じて特に解決すべき課題としては、日本と世界におけるマイノリティ問題への対応、紛争解決・和解・平和構築の促進、災害などの危機における多文化・多言語対応、グローバルな健康医療・公衆衛生分野の革新、多文化配慮のウェルネス重視のまちづくりの促進などが含まれる。

【優位性】

大阪大学では、人間科学研究科(人類学、教育学、社会学、心理学、地域研究)、国際公共政策研究科(国際政治・法・経済学を統合した国際公共政策学)、言語文化研究科(言語学、外国文化研究、及び旧大阪外国語大学のリソースによる25言語教育)を中心に、各研究科の持ち味を生かした多文化共生分野の多様な研究実績があり、人材を輩出している。大阪という立地に由来する人権教育や外国人政策の研究、阪神・淡路大震災や東日本大震災等の大規模災害時の多文化・多言語対応の研究や実践から、世界各地の紛争や和解の分析や復興・平和構築、開発支援の政策研究等まで、現場重視・人間重視の実績がある。加えて本学には、部局横断の全学教育推進機構による教育サポート体制(体験型学習、海外留学支援、コミュニケーション・デザイン科目等の提供)があり、さらに、稲盛財団寄附講座に代表される多くの外部団体からの寄附講座の導入実績がある。これらは「未来共生イノベーション」事業のスタート時点で基盤的な優位性があることを示しており、今回、総長のリーダーシップのもと、未来戦略機構の一部門として、医学系・工学の両理系部局や法・文・経の文系部局、附属病院と総合学術博物館という学内施設からのインプットを統合し、さらに学外からも「未来共生イノベーター」育成と「未来共生学」の創設という趣旨に賛同する産学官の有識者・実務者・機関のネットワークを通じた協力体制が可能となった。以上から、本学には本事業の運営・実施と学生のキャリアパス支援及び補助期間終了後の継続体制も含め、明らかな優位性があると確信する。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

